

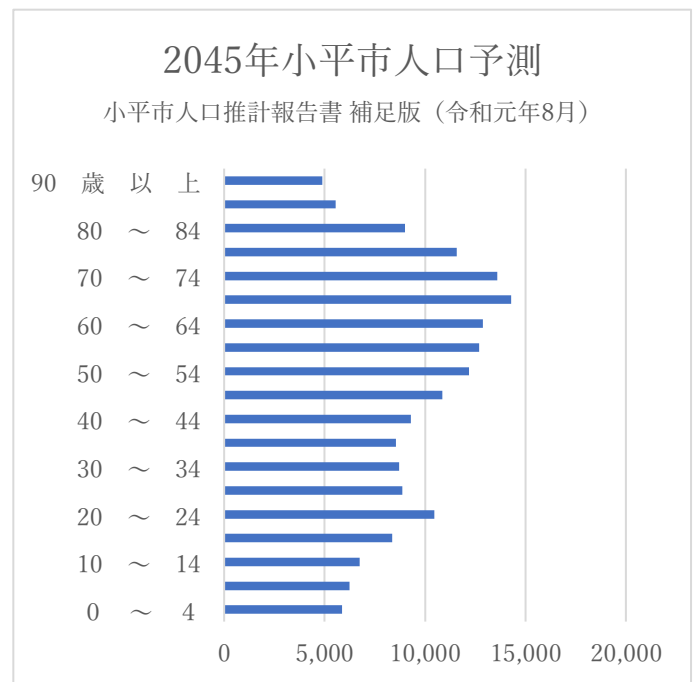
立候補予定者公開アンケート

「わたしたちのまちのつくり方」

*) 回答は、回答用紙をお願いします。

■市議会議員として取り組む重点施策について

小平市の2022年度一般予算は感染症対策関連もあって約774億円、2020年度の新型コロナウイルス対策による膨れ上がった約898億円の歳出よりは削減したものの、2021年度の767億円の歳出と変わらない予算規模です。歳出が、2012年度596億円から、10年後の2021年度で767億円と、29%の増加に対して、市税（市民税、法人税、固定資産税・都市計画税など）は、2021年度の約310億円で、2011年度の約285億円から8%増。予算が大きく増えているのは、義務的経費である民生費（社会福祉、高齢者福祉、児童福祉、生活保護など）と土木費（小川駅西口再開発、道路）が主たる増加要因です。



小平市の人口は、小平市人口推計報告書 補足版（令和元年8月）によれば、2025年の19万7千人をピークに減少して少子高齢化が加速し、2045年には18万人で、高齢化率が33%、すなわち3人に1人が65歳以上とされています。民生費（社会福祉、高齢者福祉、児童福祉、生活保護など）はますます増加、市税増加は期待できません。

限られた予算を何に配分していくか？

市議会は予算を議決する権限をもっており、28名の市議会議員のみなさまの考え方が重要です。

以下質問の回答をよろしくをお願いします。

Q1)小平市の政策で注力すべき政策として、ご自分のお考えと近い、最も優先度の高いもの3つと、次に優先

すべき3つ以内で、以下の10つのカテゴリから番号で選択ください。なお、選択肢の下の・の例は、令和4年度一般会計予算書、令和4年度小平市わかりやすい予算から抽出して当会で作成したものであり、カテゴリを説明するために記述した例でありカテゴリの内容を限定するものではありません。

回答は、お一人ずつレーダーチャートで有権者にわかりやすく比較提示します。極力3つずつ、近いものから選んでくださいますようお願いいたします。

回答欄：カテゴリの番号で3つずつ選択ください 最優先（ ）、次に優先（ ）

1. 安心・安全、防災・災害対策【安全・防災】

- ・防災行政無線デジタル化
- ・防災用器具・備蓄品購入
- ・庁舎非常用電源

2. 福祉【福祉】

- ・介護/障害者/高齢者福祉
- ・児童発達センター
- ・生活保護
- ・女性相談体制、女性再就職サポート

3. 子育て支援【子育て】

- ・保育施設・学童クラブ・児童館整備
- ・小中学生の時間外での教育、居場所づくりの拡充

4. 健康維持・増進【健康】

- ・健康維持・増進
- ・運動施設整備、利用の促進
- ・こだいら健康ポイント事業

5. 環境保全【環境保全】

- ・鎌倉公園、武蔵公園の整備
- ・用水保全、保存樹林事業、公園整備維持
- ・リサイクル・省エネ・ゴミ削減、食物資源(生ごみ)循環事業、

6. 都市基盤整備【都市基盤】

- ・小川駅西口、小平駅北口駅前再開発
- ・鷹の台駅前広場の整備
- ・都市計画道路・道路整備事業
- ・自治体DX、市役所ICT化、テレワーク実証実験

7. 地域経済振興【地域経済】

- ・農業振興、食育、地産地消の推進
- ・商店街活性化
- ・観光まちづくり
- ・起業支援

8. 教育、コミュニティ支援、生涯学習【コミュニティ】

- ・学校体育館冷暖房設備
- ・市民活動/自治会支援
- ・学校給食センター更新

9. 人口削減、税収減少にむけての政策【人口減少】

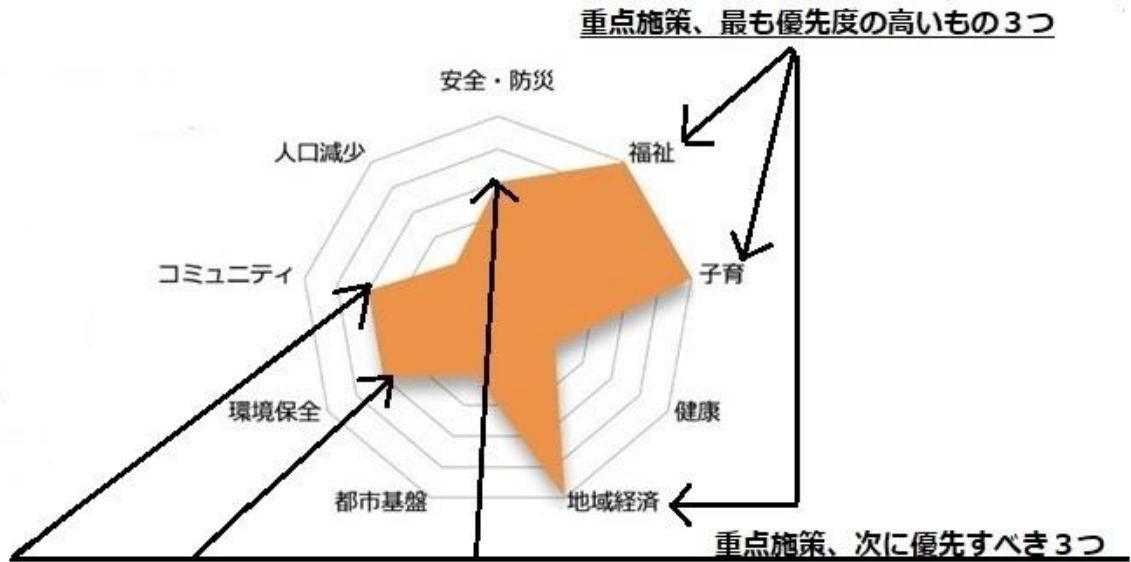
- ・中央公民館・健康福祉事務センター・福祉会館統合
- ・十一小の更新、基本計画

10. 感染症対策【感染症】

- 保育所・要介護者・介護・障害者施設等感染症対策
- 市内店舗感染症対策改修補助事業
- 感染者自宅療養者の支援
- 新型コロナワクチン接種事業

公開アンケートでは、立候補予定者の1人1人のレーダーチャートで表示します。

前回の2021年の市長選立候補予定者アンケートの際の小林洋子現市長の回答の例を示します。



2021年4月の市長選の小林洋子現市長の回答のレーダーチャート表示

■公共施設再編について地区交流センターと公民館について

小平市公共施設マネジメント推進計画は、総務省が2014年に公共施設等の総合的、計画的な管理を推進するため、各自治体に公共施設等総合管理計画（財政措置を講じて国主導で推進している）を速やかに策定するよう要請したことに基づくものです。市制施行100周年に当たる2062年度（約40年後）までの長期に渡って5期に分けて計画されました。2016年における全公共施設の313,103m²のうち21%の65,721m²を削減するという計画になっています。

小平市公共施設マネジメント推進計画(2022-2031) (※1)

第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	合計
2017-2026	2027-2036	2037-2046	2047-2056	2057-2062	
±0%	▲6%	▲7%	▲6%	▲2%	▲21%
±0 m ²	▲18,786 m ²	▲21,917 m ²	▲18,786 m ²	▲6,262 m ²	▲65,751 m ²

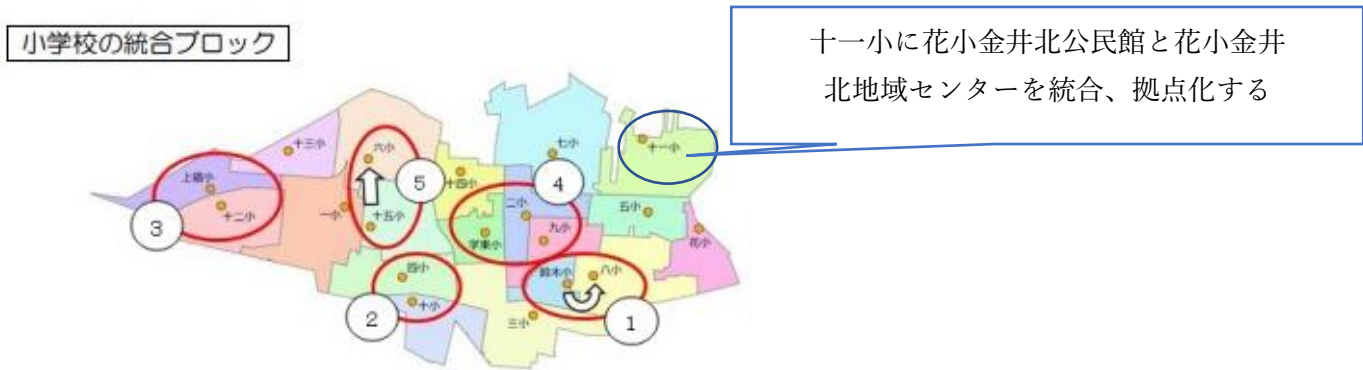
※「%・m²」は、2016年4月1日現在の全施設の延べ床面積313,103m²に対する削減率・削減面積

小平元気村おがわ東の一部の機能と、西部市民センター（小川西町公民館、小川西町図書館、西部出張所）の機能が、早ければ2026年に完成する予定の小川西口再開発ビルの4階、5階の「小川駅西口新公共施設」として集約されます。また、小平中央公民館と福社会館、健康福祉事務センターが一つの建物に集約されます。

小中学校統合の方針として、19校ある小学校を2040年度ごろから2062年度まで14校に、8校ある中学校を7校に集約する計画になっています。また統合される小学校を拠点化して、公民館や地域センターの機能を地区交流センターとして小学校と集約していくことが計画されています。

花小金井の小平11小（※2）を建替え、現在ある小金井北公民館と花小金井北地域センターを解体して新たに建設される小学校に拠点化集約し、地区交流センターとして早ければ2029年以降供用開始する検討がすすん

でいます。



※1) [小平市公共施設マネジメント推進計画 2022-2031](#) より

※2) [小平第十一小学校等複合施設の整備に関する基本計画](#) (令和4年3月) より

社会教育法(昭和24年制定)において公民館は「住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とする」とされています。小平市公民館条例でも公民館は小平市教育委員会が管理するとされており、市民の社会教育・生涯学習の場と位置付けられ、市民が学び、コミュニティを形成する役割を果たしています。

Q2) 11小への統合計画がすすんでいます。地区交流センターにおける社会教育施設としての公民館の位置づけ等、運用規定などのソフト面も併せオープンにして議論をすすめるべきだとおもいますか?

選択肢) YES NO その他

任意の自由記述意見 ()

自由記述はホームページ版のみに掲載します。

■公民館有料化について

公民館の利用料の見直し、小林正則前市長から方針として出されようとしていました。新型コロナウイルス感染症対策で、2022年度現在有料化の検討が見送られています。

有料化された近隣市、東村山市の事例では、有料化前後の2006年から2007年で1年間で利用率が50.3%から38.5% (※) に下がり、とくに長時間利用となる展示室利用が大幅に減りました。その3年後に公民館条例の一部改正を再度行い、「平均30%の政策的減額措置」を講じました。

新型コロナウイルス以降、感染症対策の利用制限自粛と、市民交流においても在宅リモート会議をすることもあり公民館の利用率は減少傾向にもありますが、学習会・展示会・イベント・上映会など、市民の貴重な生涯教育の場として公民館は利用されています。

※) 東村山市議会 2009年3月市議会、議事資料及び議事録より

Q3) 社会教育施設である公民館を有料化するべきと考えますか？

選択肢) YES NO その他

任意の自由記述意見 ()

自由記述はホームページ版のみに掲載します。

■中央公民館、健康福祉事務センター、福祉会館の集約について



図 (株) 隈研吾建築都市設計事務所 技術提案書より

小平市では、中央公民館、健康福祉事務センター、福祉会館を現在の福祉会館北側にある運動場に新しく集約された新設建物に建て替える計画をすすめており、(株) 隈研吾建築都市設計事務所による設計で、2028 年度以降の供用開始というスケジュールで検討されています(※1)。

提案書および、隈研吾氏による説明会(※2 動画配信リンクあり)では、以下の説明がされました。

- ・現中央公民館、中央図書館のエリアを「カルチャーサイト」
- ・図書館と連携した民間事業者の協力によるシェアワークスペースなどの活用、市役所南側の雑木林、運動場、健康福祉事務センターは「パークサイト」
- ・民間事業者によるマルシェ、プレイグラウンドなど若者や子育て世代も集まりやすいエリアとして活用、現福祉会館のあるエリアは、「シビックサイト」として中央公民館、健康福祉事務センター、福祉会館を集約

移転に伴う仮設工事は不要で、将来の図書館、健康センターの建て替えにも配慮され、狭いたかの街道の拡幅、緑を活かした設計など提案になっています。

類似事例のなかまちテラスでは、設計・建築時から市の職員が説明会等を行って市民参加を促しました。しかし、その意見が十分に生かされたとは言えず、建設後に不満足の声も多く上がってきました。開館の約半年前に、図書館・公民館利用者だけでなく、学校、自治会、商店会など地域の多様な主体が協働する「なかまちテラスの未来づくりワークショップ」が行われ「なかまちテラス未来実行委員会」が立ち上がり、施設運営、カフェ、PR、

イベント、企画、地域とのつながりなどの検討を協働し、開館イベントまで活動しました。その後、なかまちテラス LiNKS として、今現在も図書館・公民館と共に活動しています。

Q4) 中央公民館、健康福祉事務センター、福祉会館の建て替え集約の計画には、利用者の満足度が高い施設にするために、説明会、意見交換、パブリックコメント等の従来型的手法だけではなく、設計段階から市民が運営協力にまで参加できる形で関与することを考慮すべきと考えますか？

選択肢) YES NO その他

任意の自由記述意見 ()

自由記述はホームページ版のみに掲載します。

※1 [中央公民館、健康福祉事務センター及び福祉会館の更新等に係る設計の進め方の変更について](#)

※2 [中央エリア市民説明会【隈研吾氏登壇（動画）】（令和4年2月）](#)

■小川駅西口再開発ビルの公共施設の管理運営について

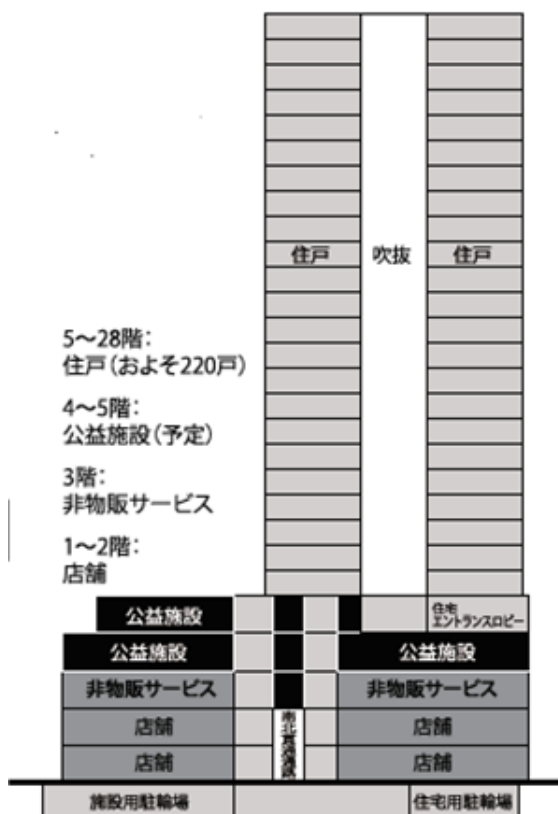


図 小川駅西口再開発計画(立面図) (小川駅西口地区市街地再開発組合の公開資料をもとに、当会にて作成)

小川駅西口公共床の基本設計 レイアウト (完成版)

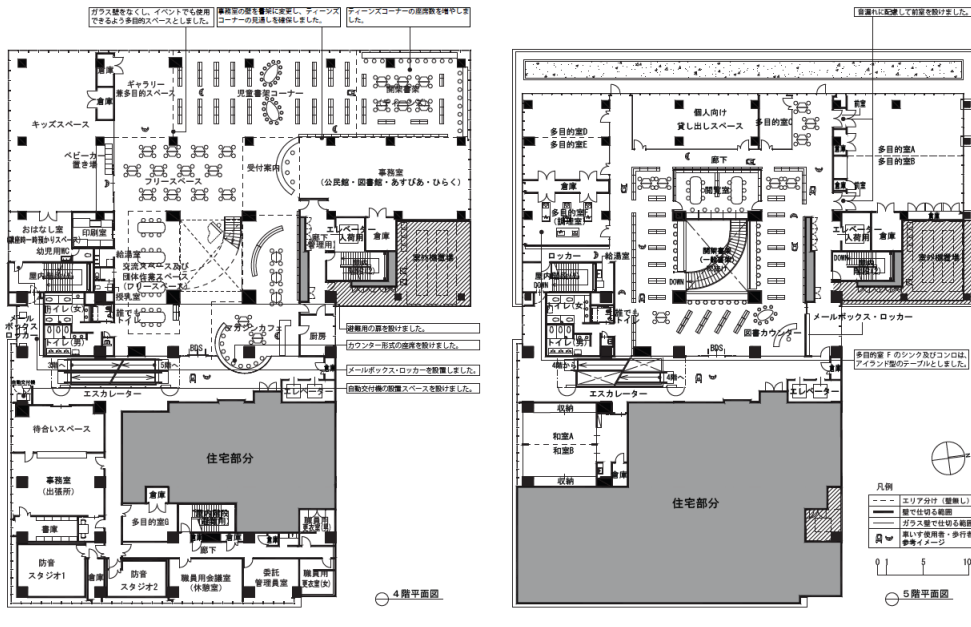


図 小川駅西口公共床レイアウト (小平市ホームページ 小川駅西口再開発ビル公共床 基本設計レイアウトをご紹介します)

小平市は、小川駅西口地区市街地再開発事業において、「小川駅西口新公共施設」を取得することとしました。

(※1)
再開発ビル4～5階の「小川駅西口新公共施設」に整備する施設として、現在の西部市民センターにある小川西町図書館、小川西町公民館、小平市西部出張所と、現在小平元気村おがわ東にある「市民活動支援センター“あすぴあ”」、「男女共同参画センター“ひらく”」の機能を移転し、敷地の西北部分に広場を設け、「にぎわいの創出等を目指すこと」としています。この「小川駅西口新公共施設」と「(仮称)小川にぎわい広場」の管理運営団体については、「なるべく広範囲の業務領域を網羅する形で指定管理者制度を導入する方向で検討する」としています。(※2)

なお、小平市の「市民活動支援センター“あすぴあ”」は、現在、小平市のNPO法人 小平市民活動ネットワークが指定管理者として運営しています。

武蔵野市では、武蔵野プレイス、美術館、文化会館、図書館、体育館など市の18の施設を運営する団体として、市も関与する公益財団法人 武蔵野文化生涯学習事業団が行っています。東村山駅の再開発ビルの公共施設サンパルネは運動施設もあることもあり、東京ドームグループが指定管理者として運営しています。

- (※1) [小川駅西口地区市街地再開発事業に関する公共床等取得について](#)
- (※2) [小川駅西口新公共施設等の管理運営に係る検討の方向性](#) (令和4年8月18日公共施設マネジメント推進委員会資料より)

Q5)「小川駅西口新公共施設」が広範囲の業務を網羅する形で指定管理者制度が導入される見込みですが、「市民活動支援センター”あすぴあ”」は、これまでのあり方と機能を維持しながら運営するべきと考えますか？

任意の自由記述意見（ ）

自由記述はホームページ版のみに掲載します。

■小平駅北口再開発について

1963年に小平駅北口の駅前広場と乗り入れ道路である都市計画道路3・4・19は小平市都市計画として決定されました。2015年9月に小平駅北口地区再開発準備組合が設立され、1963年の都市計画決定の検討範囲を約4倍に広げて、東京街道の南側まで開発範囲を拡張し、高層ビルを2棟建設する計画が検討されています(※)。

一方で1963年策定の都市計画決定通りに駅前広場と都市計画道路、小平3・4・19号線の整備を進めることは否定しないものの開発エリアを拡張する再開発準備組合とは意見の異なる地権者グループがあり、再開発準備組合は、事業認可に必要な所有者、借地権者の2/3以上の数、および、所有する面積の2/3以上の同意が得られていません。



図 小平市都市計画マスタープランより作成

(※) 小平駅北口地区市街地再開発準備組合のホームページより
<http://kodairakita-saikaihatsu.com/development/>

Q6) 小平駅北口再開発準備組合の計画（東京街道南側以下、都市計画の4倍を開発範囲とした案）をこのまますすめるべきと考えますか？

選択肢) YES NO その他

任意の自由記述意見（ ）

自由記述はホームページ版のみに掲載します。

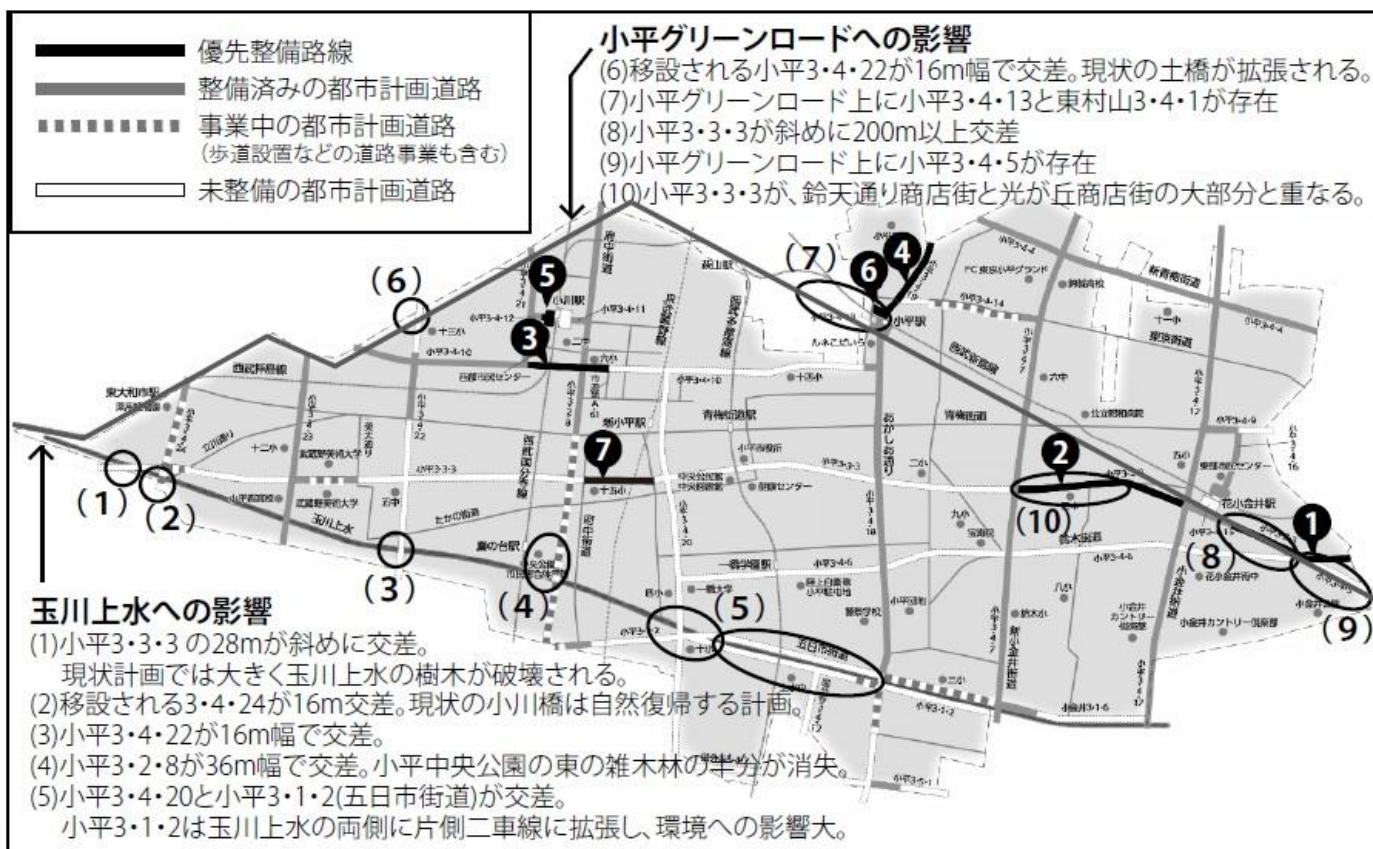
■都市計画道路 小平3・3・3号線について

小平市の都市計画道路は、1963年に小平市都市計画決定されましたもので、24路線あり2022年3月現在、整備率は約43.1%、8路線が開通、残り16路線は事業中、もしくは未着手です（※）。

東京都と26市2町が2016年4月に策定した「東京都における都市計画道路の整備方針（第4次事業化計画）」（※2）で決められた小平市の優先整備路線は、2017年5月の小平市の都市計画マスタープランでも同じく優先整備路線として、2025年度までに事業化すべき計画と位置付けられています。

その後、東京都と26市2町は、2019年に「東京における都市計画道路の在り方に関する基本方針」の策定を行い、優先整備路線等を除く未着手の都市計画道路について、さらなる見直しを行い、25か所見直しをしました（※3）が小平市の計画について見直しはありませんでした。

小平市の都市計画道路は、東京都施工の小平3・3・3号線の東側の一部の計画（図2の①②）、小平市施工の3路線、小川駅西口への乗り入れ道路である小平3・4・12号線と駅前広場（図2の⑤）、小平駅北口への乗り入れ道路である小平3・4・19号線と駅前広場（図2の④⑥）、小川駅の南側の東西道路である小平3・4・10号線（図2の③）が、2025年度までに優先的に整備される路線として位置づけられています。



小平市内の都市計画道路と優先整備路線

※市報こだいら 2016年5月5日都市計画道路特集号(*7)に、玉川上水、グリーンロードなど自然環境、商店街などの生活環境との影響が大きい部分について注記を追加した。

- ①②小平3・3・3号線、③小平3・4・10号線、④⑥小平3・4・19号線と交通広場約5,000m²、
- ⑤小平3・4・12号線と交通広場約3,200m²が2017年から、2026年までに優先的に整備される予定となった都市計画道路。
- ⑦小平3・3・3号線、第三次みちづくり・まちづくりパートナー事業

図 小平市の都市計画道路と優先整備路線をもとに、玉川上水・グリーンロードの関係

Q7)小平3・3・3号線を1963年の都市計画決定通りに開発をすすめるべきと考えますか？

選択肢) YES NO その他

任意の自由記述意見 ()

自由記述はホームページ版のみに掲載します。

※1) [小平市ホームページ都市計画道路](#)

※2) [東京都における都市計画道路の整備方針\(第4次事業化計画\) P64より](#)

※3) [「東京における都市計画道路の在り方に関する基本方針」の策定について](#)

■男女共同参画について

小平市の男女共同参画推進条例（※）は、「男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現を目指す」とされ、2022年4月には、小平市は男女共同参画宣言都市になりました。

市の責務として、「市は、男女共同参画の推進を最重要課題の1つとして位置付け」ています。

現在、小平元気村おがわ東の男女共同参画センターは専用の部屋はあるものの、相談業務はしていません。男女共同参画センターは小川西口再開発ビルの4階、5階の「小川駅西口新公共施設」に集約され専用の部屋はなくなります。

女性活躍推進法は、改正され令和4年4月1日から女性活躍推進法に基づく行動計画の策定・届出、情報公表が101人以上の国や地方公共団体、中小企業にも義務化されました（※2）。

小平市では、女性活躍推進法に基づく小平市特定事業主行動計画（※3）を定めて、2025年度までに、採用試験の受験者の女性比率を50%とするとして令和3年度は約40%、管理職における女性比率を30%にするとして、令和4年度は約20%でした（※3）。

※1) 小平市ホームページ [小平市男女共同参画推進条例](#)

※2) [厚生労働省 女性活躍推進法特集ページ（えるぼし認定・プラチナえるぼし認定）](#)

※3) [小平市特定事業主行動計画](#)

**女性の職業選択に資する情報の公表及び
小平市特定事業主行動計画「HAPPYこだいら」数値目標の進捗状況**

1 採用試験の受験者の女性割合

（令和3年1月1日から令和3年12月31日までの採用に係る採用試験）

職種	受験者総数	うち女性	割合
一般事務	332人	138人	41.6%
一般技術	48人	1人	2.1%
保育士	21人	17人	81.0%
看護師	5人	5人	100.0%
学芸員	3人	2人	66.7%
合計	409人	163人	39.9%
会計年度任用職員 （専門職）	235人	141人	60.0%
会計年度任用職員 （アシスタント職）	採用試験なし		-

今回		HAPPYこだいら 目標数値				
令和3年	令和2年	令和元年	平成30年	平成29年	平成28年	令和7年度まで毎年度
約40%	約35%	約38%	約43%	約41%	約39%	50%

3 各役職段階の職員の女性割合（管理職の女性割合）

（令和4年4月1日現在）

職層	総数	うち 女性職員	割合
部長	19人	3人	15.8%
課長	52人	4人	7.7%
課長補佐	67人	21人	31.3%
係長	152人	60人	39.5%
主任	270人	146人	54.1%
主事	388人	232人	59.8%
合計	948人	466人	49.2%
管理的地位にある職員 (部長・課長)	71人	7人	9.9%
管理職員 (部長・課長・課長補佐)	138人	28人	20.3%

今回		HAPPYこだいら 目標数値				
令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	令和7年度
約20%	約19%	18%	約17%	約15%	約16%	30%

Q8) 小平市役所内の女性職員の比率や管理職の割合について女性活躍推進法による行動計画に基づいて、より推進すべきだと思いますか？

選択肢) YES、NO、その他

任意の自由記述意見 ()

自由記述はホームページ版のみに掲載します。

以上